

五代目理事長 助川 英治 × 六代目理事長 酒井 基次

新旧理事長対談



第22期(2024年3月期)通常総会において、理事長の役職を2期4年担ってきた助川英治氏から、事務局長を務めてきた酒井基次氏に交代しました。お二人に理事長の仕事に対する思いやNPOクラブの現状、今後の活動方針、会員へのメッセージなど話していただきました。〈司会：斉藤江美〉

司会 (斉藤)： 本日はお忙しいところありがとうございます。助川さん、2期4年間、理事長、お疲れ様でした。

本日は本当にざくばらんにお話を伺いたいと思うので、ご苦労されたこととか、楽しかったこと、やり切ったことなど、自由に話していただけたらと思います。

助川： もう4年間ですからね。しかも私が就任したのは、ちょうど2020年の頃で、コロナが流行っていて、しかも私が腹部大動脈瘤っていう大病を患ったタイミングで、それで退院してきたら、私を理事にして理事長にするというね、そんな話が出てきて、僕はもう6年間理事をやっていたし、体の部分でもあんまり自信なくどうしようか考えました。

その頃は、今回と違って理事長は理事の互選でしたから、コロナで5月の理事会は本当に形式的な形で、役員の変更というだけで終わりました。

そして7月にオンラインとのハイブリッド式の役員改正の臨時総会で就任しました。

苦労したことと言えば、就任の2020年から始まって3年間。いわゆる従来の1億を超

えた売り上げがコロナ禍で2、3割落ちてそういうのがずっと3年続くわけですからね。

それで、今年と去年ですかね、やっと2023年ようやくコロナで回復の兆しが見えたということで、この3年間は先が見えず本当に大変でした。

コロナがほぼ収束しても去年の売り上げはそんなに伸びてないのですが、先輩方から絶対赤字にしちゃダメだ。と言われてこれが結構辛い部分で苦労しました。

しかし、会員の皆さん方も協力してくれてなんとか少額の赤字で乗り切れました。

そういう意味でも、次の新理事長酒井さんも事務局長をやられて、経理的にも中身は知っているし、それが次のステップにきっと繋がっていくと思います。

次年度の話をするると、結構いい予算を組めたんでいいバトンタッチが出来ました。

司会 (斉藤)： 助川さんは前任の理事長からは何か引き継ぎはされましたか。

助川： 中期活動方針です。前任の山口さんは、俺はいわゆるショートリリーフだということ



で、1つは夢を語ろう。10年後のNPOクラブを考えようということでした。

基本的には3年間の中期活動方針があるのですが、山口さんはロマンチストなところがあるから、その先の10年先を考えようという思いでした。

司会（斉藤）：楽しかったこと、嬉しかったことは？

助川：任期中に20周年という節目を迎え記念事業を実施し、先月も関西グループの10周年と2つの記念事業に立ち会えたのは、非常に嬉しかったですね。

司会（斉藤）：それでは、続いて新理事長酒井さん、ご就任おめでとうございます。まず最初に、何回も聞かれと思いますが、抱負をお話しいただければと思います。

酒井：そうですね、先ほど助川理事長からお話もありましたけど、23年度は収入も増えていますが、従来と比較して収入が増える以上に費用がかかるような構造になっています。

1つは、コロナ禍において基本的にWEBで参加をするというのはある程度定着をして、そしてリアルが復活した。従来から比べるとリアルの部分にプラスWEBの参加者も増えています。参加者が増えること自体いいことなのですが、その分トータルとしてのコストはアップしています。その部分が何か活動に繋がれば非常に望ましいことですが、やはり

収入とのバランスを取りながら、なおかつNPO活動を拡大していくということが一番の目標ということです。

それから、今年度については、経済産業省の中堅・中核企業の経営力強化支援というような新しい取り組み、2015年以来9年ぶりに経済産業省の大きな案件ということで、テーマ型で受託できました。

それ以外にもいくつかの案件が、受託できそうな可能性はあるので、そういう意味では24年度からスタートする中期活動方針の初年度としては、非常にいいスタートが切れそうな感じがしております。

ただ、例えば経済産業省のテーマ型案件にしても、そのテーマの内容が医療、福祉、健康で、秋田県も三重県と同じように医療分野の新規受託となるため、受託を出来れば非常にありがたいことと思いますが、医療福祉健康分野の取り組みメンバーに限られるため、どうやってそのメンバーの枠を広げていくかという大きな課題があります。自動車についても自動車企業出身者が少し増えてはいるんですが、どうしても同じメンバーで、色々な案件を回していかなきゃいけないというところが課題と言えます。

それに新たな案件が加わってくるとなると、やはり特定の会員に、一定の負荷がかかる懸念があります。

会員の平均が73.0歳にちょっと上がりましたので、これは毎度のことですが、やはり健康が何を言っても活動のベースになるんで、その点を踏まえながら取り組みを進めたい。

それからもう1つは、中期活動方針の重点課題にもなってるように、新規領域収益事業開拓あるいは人材不足対策とか、従来十分に取り組みでこれなかった分野についても取り組みを進めていきたいと思っています。これらに関しても、できるだけ新しい会員にも参画いただいて、そういう意味では、ベテランと新

しい会員がコンビを組んで、案件に取り組んでいただければ、非常に活性化につながると思っています。

司会（斉藤）：はい、ありがとうございます。本当に今、案件受託までのご苦勞もさることながら、受託してからの課題が大変山積みかもしれないって気もしております。

会員に対して何かちょっと望んでること、ちょっとこんな困ってること、新入会員へのメッセージ。そんな点では、何か一言いかがでしょうか。

酒井：そうですね、新入会員について、いわゆる先輩の紹介で入会された方は、比較的スムーズに案件に取り組めますが、それ以外の方は、色々な案件に参加するきっかけがやっぱり1番重要だと思います。エルダー制度がありますが、十分に機能していない面もあるので、参加しやすいような雰囲気を作るとするのは結構大事だと思います。今、会員の皆さんが活動に参画しやすい環境を作るという重点課題がありますが、まさにそういうことだと思います。

それと、昨年設置されましたよろず相談承りチーム（YSチーム）がありますが、エルダー制度とは別の受け皿として、セーフティネットとして機能すればいいかなという風に思っています。

司会（斉藤）：私の感想でも、まだ3年しか経ってないですけど、前に比べて、新入会員がどんどん積極的に参画するようになっていい傾向ですよ。

酒井：今活躍している会員は3年以内の方が、結構多いですよ。それは本人の資質もありますが、積極的に本人が参加するっていうのも大事だという風に思います。



重点課題のメンバーにも、必ず1チームに2～3人は若手を入れるようにという方針もしっかり出されてますし、先ずは、出来る出来ないよりも、積極的に参加することが重要ですね。

一度参加すれば、次の機会も参加しやすい。メンバーの顔が直接会ってれば分かるので、そういう意味では、出来る出来ないよりも、意思を持って参加するっていうことの方が大事かなと思います。

助川：今の話で、いわゆる新しく入った若手の活躍の場がどんどん広がっていますね。先輩会員には技術に詳しい人とかいっぱいいますし研究会とかタスクチームに入れば勉強にもなります。

司会（斉藤）：ありがとうございます。お二人に聞きたいんですけど、新入会員時代というか、このNPOクラブに入られたきっかけですとか、そういったところのお話も、ぜひ昔話を聞かせてください。

助川：私はね、元々このNPOクラブに会社の先輩の富長さんがいて誘われたのですが、当時 医薬・健康食品関係の分野でコンサルを自分で会社を作ってやってましたのでお断りしました。

大きな客先の取引があったのですが、それが3年目に契約が切れたんで、富長さんに再度当時のIK会（今のヘルスケア）で医療部門を強くしたいと誘われ、それだったら、興味

あるからってということで、それが入会のきっかけ、グッドタイミングだったんですね。

酒井：私の動機はですね、JA全農の子会社にいましたので宇野さんが時々オフィスに来ておられたんです。NPOクラブというのがあるということは知っていたんで、面白そうだということで自主的に入ったんです。

最初、Aグループに所属し、JAグループの全農の子会社や農業関連を中心に販路開拓していました。

Aグループには流通関係の大御所の三菱食品の中島さん、東武ストアの鈴木さん、メーカーではミツカンの伊藤さん他各専門家の人がいらっしやっただんで、グループとしては非常に面白い活動をしていました。その後Aグループのリーダーをやっていたところ、前任の萩原さんが体調を悪くされたので、助川理事長の指名により急遽事務局長をやることになりました。

事務局長になってからは、Aグループを中心としてやっていましたが、他のグループとの関わりも増えてきて、他のグループの定例会にも参加するようになりました。仕事の幅としては広がったという風に思います。

司会（斉藤）：そういったオールマイティーな幅広い活躍以外にも、いろんな特技、趣味もたくさんあると聞いていますが。

酒井：趣味は同好会の料理教室に参加しているように、料理が昔から好きでした。生鮮食品とか食品のバイヤーもしていたので、北海道から九州までいろんな産地にも出向きましたし、実際にいただいた商品を自分で調理していました。

あと、最近は楽膳倶楽部の子ども食堂にも参画しています。

子ども食堂は食材を横浜冷凍などから調達しています。

このきっかけは横浜冷凍のSDGsの発表

会があって、その時に東京営業所が子ども食堂に食材提供してるという発表があり、東京営業所の所長に確認したところ食材提供できるという回答をいただきスタートしました。また時岡さんからは自分のビズフーズという会社と取引のある冷凍食品会社を紹介してもらい商品提供が可能となり、毎月第1日曜日にお邪魔しています。いまだに弁当提供方式ですけども、協力できる取り組みには参加していきたいと思います。

司会（斉藤）：ありがとうございます。最後の質問、唐突かもしれませんが、座右の銘なんて伺いたいんですけども。

助川：私はね、基本的にゆるめっていうか、あんまりこう、くよくよしない。

わかりやすく言うと、「明日は明日の風が吹く」というのが基本の考えなんです。

だから、「人間万事塞翁が馬」その2つ、同じようなことですが、それですね。

酒井：私はね、基本的には決めたことはできるだけ早く実行するという、そういう「迅速果敢」という言葉が好きです。そういうことを基本的にやってきておりますし、これからもやっていこうという、そんな感じです。

司会（斉藤）：本日はありがとうございました。

